

南アフリカ 生食用ブドウの出荷開始が遅れ、輸出は微増の予測

[The Grape Reporter](#) 2024年12月12日

南アフリカの2024-25年度の生食用ブドウシーズンが始まり、生産者は高品質な果実を期待しており、また新世代の品種の出荷が本格化することから輸出量は昨シーズンに比べて1%増加すると予測されている。

Freshfruitportal.com(本サイトの親サイト)が、南アフリカ生食用ブドウ協会(SATI)の販売開発・コミュニケーション担当マネージャーであるデネーン・エラスマス氏に話を聞いたところ、同氏はすべての兆候が平年並みのシーズンになることを示していると述べた。(以下「」は同氏の話)

「全国の出荷量は7,640万箱を中心に、最大で約7,870万箱、最小で約7,410万箱と予想される。この数字は、5年間の平均より6%多く、南アフリカが世界市場に十分な品質の果実を供給できる状況にあることを示している。」

SATIは、第48週(11月末)までに合計432万箱の輸出検査が行われたと12月6日までの週に報告した。これは昨年の同時期より30%少なく、シーズンの開始が遅れたことが原因である。また、第48週までに188万箱が輸出され、これは前シーズンの同時期に比べて29%少なかった。

輸出市場について、エラスマス氏は「2023/24年度シーズンの生食用ブドウの総輸出の77%を占めた主要市場である英国とEUにおいて、好ましい供給国としての南アフリカの地位を維持することがかねてより最優先事項の1つであり、現在もそうである」と述べた。

南アフリカは現在、世界の生食用ブドウ輸入国トップ20のうち16カ国にアクセスがあり、エラスマス氏によると、「引き続きこれらの市場に一貫した高品質の果実を供給することが最優先事項である。」

業界の課題

世界中の他の多くの生産者と同様に、南アフリカの生食用ブドウ生産者は、季節外れで変動する天候パターンに適応しなければならなかった。「SATIの中核的な機能の1つは、生産者が生産効率を改善し、季節外れの天候に適応するのに役立つ研究を主導することである。」

同氏はさらに、投入コストの上昇の影響を指摘し、「そのため、農場レベルの効率を常に改善する必要がある」と述べた。

「南アフリカの果実輸出業者が経験した物流上の課題は、広く認識されている。SATIは、トランスネット(運輸公社)の港湾ターミナルや国及び西ケープ州政府などの関係者とより緊密な関係を築くなど、これに対して積極的なアプローチを取っている。」その結果、業界とこれらの関係機関とのコミュニケーションに改善が見られ、同協会と関係機関は港湾の課題を解決するために進行中の取り組みを支援していると同氏は述べた。

SATIの最新の報告書によると、ケープタウン港は直近の時点で9基のSTS(荷降ろし用)クレーンのうち7基、30基のゴムタイヤ付きガントリー(RTG)クレーンのうち24基を稼働させていた。他の2基のSTSクレーンは今週中に稼働する予定であり、稼働できるRTGは2024年12月6日以降、28基に増加した。

同報告書は、1時間当たりの総クレーン稼働数(GCH)で計測した生産性は、昨年の同時期と比較して著しく増加し、第48週に計測されたGCHは、昨年の同週の12に対して17であったと記述している。

業界の成長

新たな市場機会についてエラスマス氏は、SATIにとって、市場の維持と同様に市場の開拓も重要であると指摘した。「我々は現在、南アフリカ産生食用ブドウの輸出を東南アジア、米国、カナダに拡大する機会を模索している。」

2023-24年度の出荷シーズンに南アフリカが輸出した上位5品種は、クリムゾンシードレス、スイートグローブ、スイートセレブレーション、プライム及びオータムクリスプであった。